第 4 章

利用マニュアル

本章では，EDBroW の操作方法について説明します．

4.1 起動の準備

システムを起動する前には，何点か準備が必要です．

最初に，第 3 章の手順に従って，必要なシステム辞書を作成して下さい．必要があれば，ここで作成された辞書を適当なディレクトリにコピーして下さい．

次に，システム初期化ファイルを編集します．システム初期化ファイルは，EDBROW.INI という固定名で，EDBroW の実行時ディレクトリになければなりません．EDBROW.INI で，システム辞書のパス名の指定と，デフォルトのモードを設定できます．

EDBROW.INI の書式は，以下の通りです．

- 先頭に #のある行は，コメントとして扱われる．
- 〈識別子〉=〈データ〉の形式で記述する．

システム辞書パス名は，表 4.1 に示す識別子で指定します．

識別子	辞書種類
WD	単語辞書
BI	対訳辞書
CC	共起辞書
CH	概念体系辞書
CR	概念記述辞書
CI	概念見出し辞書

表 4.1 辞書指定用識別子

また，表示モードとして，「コード説明表示モード」を利用したい場合には，識別子 'CODETBL' に，コード表ファイルのパス名を指定する必要があります．EDBroW のシステム一式に含まれている，CODE.TBL というファイルがコード表ファイルです．

辞書，コード表ファイルのパス名が設定されていない，または不正なパス名である場合には，その辞書（または「コード説明表示モード」）が利用できなくなります（その辞書の検索メニューが選択不可になります）．また，不要な辞書の指定行は，削除するかコメントアウトしてください．実際に存在しないパス名などが指定されていると，EDBroW は起動時にエラーメッセージを表示します．

デフォルトモード設定は，表 4.2 に示す識別子で指定します．

モード設定と，その設定時の動作については，次節を参照して下さい．ここでの設定は，シス

識別子	内容	可能な指定	備考
DISPLAY_UINFO	ユーザ情報 表示モード	DETAIL ABBREV SIMPLE	詳細表示 省略表示 簡約表示
DISPLAY_CHDW	概念見出し 表示モード	JPN ENG ALL	日本語優先 英語優先 日英表示
DISPLAY_WEND	語尾表示 モード	ON OFF	
DISPLAY_CODEX	コード説明 表示モード	ON OFF	
DISPLAY_SRCHDLG	関連検索 モード	ON OFF	ダイアログ起動 〃 しない

表 4.2　モード指定識別子

テム起動時のデフォルトのモードを決めるだけで，モード自体は，システムの動作中に変更することができます．

以下に，EDBROW.INI の例を示します．

```
#単語辞書
WD = C:¥EDBROW¥DICT¥WD_SYS.DIC
#概念体系辞書
CH = C:¥EDBROW¥DICT¥CH_SYS.DIC
#概念記述辞書
CR = C:¥EDBROW¥DICT¥CR_SYS.DIC
#概念説明辞書
CI = C:¥EDBROW¥DICT¥CI_SYS.DIC
#対訳辞書
BI = C:¥EDBROW¥DICT¥BI_SYS.DIC
#共起辞書
CC = C:¥EDBROW¥DICT¥CC_SYS.DIC
#コード表ファイル
CODETBL = CODE.TBL
#表示モード
DISPLAY_UINFO = ABBREV
DISPLAY_CHDW = ALL
DISPLAY_WEND = ON
DISPLAY_CODEX = ON
#関連検索時の　検索ダイアログ起動モード
DISPLAY_SRCHDLG = ON
```

なお上記の例は，EDBroW 配布時の EDBROW.INI の内容と同じです．したがって，各辞書のパス名を上記と同じにすれば，そのまま EDBroW を利用できます．

4.2 システムのモード

4.2.1 表示モード

表示モードには，4 種類あります．

ユーザ情報表示モード

辞書検索の結果は，ユーザ情報として取り込むことができ，取り込まれた情報は，ユーザ情報表示領域に表示されます．この表示形式を，以下の 3 種類から選ぶことができます．

詳細表示　ユーザ情報の各レコードについて，すべての情報を表示する．参照情報，覚書情報は，このモード時にのみ表示される．

省略表示　各レコードの一部の情報を省略して，見易い形式で表示する．

簡約表示　各レコードの，最低限必要な情報のみを表示する．

各辞書レコードの，それぞれのモードにおける表示形式は，各辞書検索の項を参照して下さい．

概念見出し表示モード

概念見出し辞書を除くすべての辞書レコードには，概念識別子のみが格納されており，これに対する説明文は，概念見出し辞書を参照して表示するように設計されています．概念見出し表示モードは，この表示形式を指定するもので，以下の 3 種類から選ぶことができます．

日本語優先　概念見出し辞書から得られたフィールド（4 種類）のうち，日本語のデータを優先して，以下の形式で表示します．

{〈日本語概念見出し〉}〈日本語概念説明〉

日本語概念見出しがない場合には，{} は表示されず，日本語概念説明のみが表示されます．

概念見出しレコードに，日本語概念見出し，日本語概念説明が両方とも無い場合には，英語のデータを，以下の形式で表示します．

{〈英語概念見出し〉}〈英語概念説明〉

英語優先　英語概念見出し / 英語概念説明を優先して表示します．形式は，日本語優先モード時と同様です．

日英表示　概念見出し辞書レコードの，すべてのデータを，以下の形式で表示します．

{〈日本語概念見出し〉}〈日本語概念説明〉 /
{〈英語概念見出し〉}〈英語概念説明〉

語尾表示モード

単語レコードにのみ有効なモードです．

システムの単語辞書では，単語見出しとして単語の不変化部分を格納しています（動詞「引く」であれば "引"）．辞書レコード表示の際，語尾表示モードが ON になっていれば，単語の語尾

（終止形）を付加して表示します．これは，単語見出しだけでなく，読みのフィールド（日本語単語辞書のみ）にも有効です．

例

OFF 【引】(ヒ) (JVE) <3cf7b1> {J}

ON 【引・く】(ヒ・ク) (JVE) <3cf7b1> {J}

コード説明表示モード

単語レコード，対訳レコードに有効なモードです．

コード表示された品詞，左右連接属性に，そのコードの説明を日本語で付加して表示します．品詞，左右連接属性以外の文法コードには無効です．

例

OFF 品詞： JN1

ON 品詞： JN1（普通名詞）

なお，このモードは，辞書検索結果の詳細表示時，および，ユーザ情報では，表示モードが「詳細表示」になっている時にのみ有効です．

4.2.2 その他のモード

デフォルト検索モード

EDBroW には，検索モードとして，以下の 3 種類が用意されています．

完全一致 検索キーと完全に一致するすべてのレコードが検索されます．

部分一致 検索キーの先頭から 1 文字づつ伸長させたキーを完全一致で検索した結果の和集合が検索されます．すなわち，検索キーが "ABCDE" である場合には，

A
AB
ABC
ABCD
ABCDE

が検索されます．

前方一致 検索キーと，先頭から検索キー長さ分までが一致するレコードが検索されます．すなわち，検索キーが "man"である場合には，

man
manager
mankind
manner
manual

などが検索されます．

これらのモードは，可変長の検索キーにのみ有効であり，固定長の検索キー（概念識別子）は完全一致による検索しかできません．この場合には，他のモードが選択されていても，自動的に完全一致で検索を実行します．

また，単語辞書に限り，「語尾つき検索モード」が利用可能ですが，これは，部分一致検索とフィルタキーを利用することにより，検索キーを「語尾つき」でも検索できるようにしたものです．つまり，単語 "dictionary"が，検索キー "dictionary"で検索できます（完全一致検索の場合には "dictionar を検索キーとする）．

これらの検索モードは，各辞書検索ダイアログボックス内で指定できますが，ダイアログボックス起動時のデフォルト検索モード（起動時にチェックされているラジオボタン）を指定するのが，「デフォルト検索モード」の役目です．

デフォルト検索モードでは，「語尾つき検索」も指定できるようになっていますが，これが指定された場合，単語辞書以外では，「完全一致」がデフォルト検索モードとなります．

関連検索時のモード

関連検索とは，ユーザ情報中の辞書レコードから，関連する他の辞書のレコードを検索する機能です．関連検索の詳細については，4.4.9で説明しますが，関連検索ダイアログボックスで，検索する辞書の種類と検索キーを指定した後，【OK】をクリックすると，対象となる辞書の検索ダイアログボックスが起動するようになっています．関連検索時のモード設定で，辞書検索用のダイアログボックスは起動せずに，直接辞書を検索するようにすることが可能です．モードがOFF の時には，対象となる辞書検索ダイアログボックスは起動しません．

4.3 システムの起動

システムは，プログラムマネージャから，EDBroW のアイコン（図4.1参照）をクリックして，[ファイル] – [開く] を選択するか，アイコンをダブルクリックすれば起動します．

図 4.1 アイコン

システムが起動すると，図4.2に示すメインウィンドウが表示されます．

ユーザ情報表示エリアには，起動時にはなにも表示されません．辞書検索結果を取り込むなどして，ユーザ情報が作成されると，このエリアに

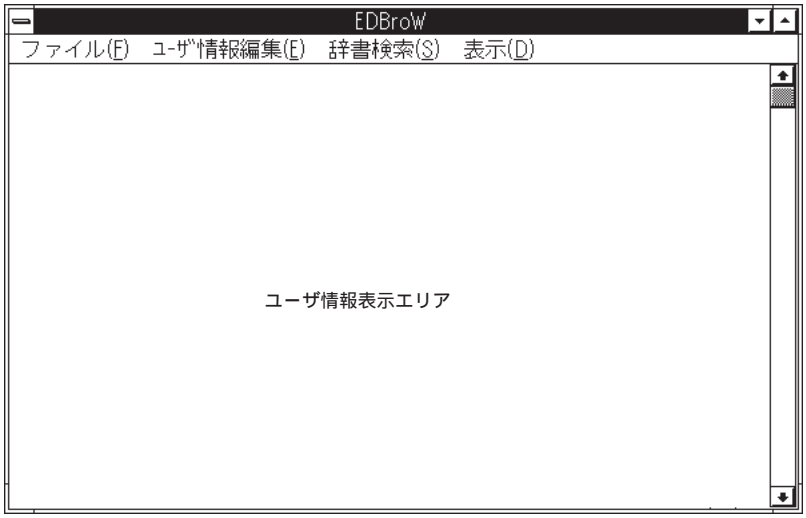


図 4.2 EDBroW メインウィンドウ

表示されるようになります．

EDBroW は，メインウィンドウのメニューを選択することにより，検索などのコマンドを実行します．以下に，各メニュー項目と，その動作概要を示します．なお，ショートカットキーが定義されている場合には，[メニュー]（ショートカット）のように記します．

[ファイル(F)] メニュー

システム全体の動作にかかわるコマンドをサブメニューとして持ちます．

[ユーザ情報読込(L)...]（Ctrl+L）

EDBroW の実行時ディレクトリにある，ユーザ情報ファイル（拡張子 .uif）を読み込みます．

[ユーザ情報保存(S)...]（Ctrl+S）

現在バッファにあるユーザ情報を，ユーザ情報ファイルに保存します．

[ユーザ情報クリア(C)]（Ctrl+N）

現在バッファにあるユーザ情報をクリアし，バッファをシステム起動時の状態に戻します．

[辞書切換え(J)...]（Ctrl+J）

システム辞書を切りかえます．

[モード設定(M)...]（Ctrl+D）

システムのモードを変更します．

[印刷(P)...]

現在バッファにあるユーザ情報を印刷します．

[終了(X)]

システムを終了します．

[ユーザ情報編集(E)] メニュー

ユーザ情報の編集に関連するコマンドをサブメニューとして持ちます．

[新規(N)]

ユーザ情報レコードを新規作成します．レコードの種類に応じて，以下のサブメニューがあります．

[単語レコード(W)...]

[対訳レコード(B)...]

[共起レコード(C)...]

[概念体系レコード(H)...]

[概念記述レコード(R)...]

[概念見出しレコード(I)...]

[変更(M)...]（Ctrl+E）

選択されたユーザ情報レコードの内容を変更します．

[削除(X)...]（Del）

選択されたユーザ情報レコードを削除します．

[コピー(C)...]（Ctrl+V）

選択されたユーザ情報レコードをコピーします．

[取消(U)...]（Ctrl+U）

ユーザ情報への変更を取り消し，バッファを一つ前の状態に戻します．

[キーワード(K)...]

ユーザ情報のキーワードを設定 / 変更します．

[辞書検索(S)] メニュー

辞書検索用のコマンドをサブメニューとして持ちます．システム辞書を辞書レコード単位で検索するコマンドとして，以下のサブメニューがあります．

[単語辞書検索(W)...]（Ctrl+W）

[対訳辞書検索(B)...]（Ctrl+B）

[共起辞書検索(C)...]（Ctrl+C）

[概念体系辞書検索(H)...]（Ctrl+T）

[概念記述辞書検索(R)...]（Ctrl+R）

[概念見出し辞書検索(I)...]（Ctrl+F）

その他に，以下の検索コマンドが用意されています．

[上位概念検索(U)...]（Ctrl+O）

概念体系辞書を使い，検索キーとなる概念識別子が体系上のどの位置にあるか，を表示します．

[可能関係子検索(P)...]（Ctrl+P）

概念記述辞書と概念体系辞書の継承機能を利用し，検索キーとなる 2 概念間にどのような概念関係が成り立ち得るかを調べ，表示します．

[関連検索(A)...]（Ctrl+A）

指定されたユーザ情報レコードをもとに，関連する他の辞書を検索するためのコマンドです．

[表示(D)] メニュー

ユーザ情報の表示モードを変更します．

[ユーザ情報詳細表示(D)]

ユーザ情報表示モードを「詳細表示」に設定します．

[ユーザ情報省略表示(A)]

ユーザ情報表示モードを「省略表示」に設定します．

[ユーザ情報簡約表示(S)]

ユーザ情報表示モードを「簡約表示」に設定します．

4.4 辞書の検索

各辞書の検索方法の説明に入る前に，各辞書に共通な操作，注意点等について説明します．

概念識別子の入力

検索ダイアログボックスなどにおける概念識別子の入力は，16進数6桁（半角）の文字列により行いますが，入力がちょっと面倒です．このため，EDBroW では，概念識別子の入力を必要とするすべてのダイアログボックスに，「概念識別子入力コンボボックス」を利用しています．

概念識別子入力コンボボックスは，現在ユーザ情報中に取り込まれている，すべてのレコードに含まれる概念識別子をリスト表示し，リストからマウスで選択することにより概念識別子の入力が可能となるものです．

例えば，ある単語の 1 語義にあたる概念識別子で，別の辞書を引きたい場合には，まず単語辞書のレコードをユーザ情報中に取り込みます．次に，検索したい辞書のダイアログボックスを立ち上げれば，概念識別子入力コンボボックスを利用して，マウスにより概念識別子が入力できます（図 4.3参照）．

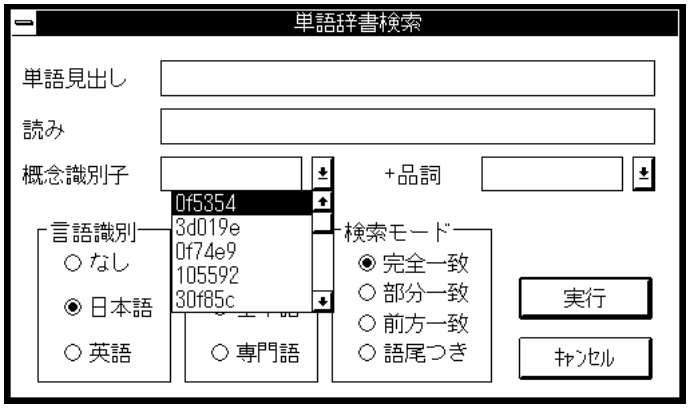


図 4.3 概念識別子入力コンボボックス

※ 概念識別子は，ユーザ情報に取り込まれた順序の逆順でリスト表示されます．なお，ユーザ情報が削除されても，概念識別子は残ります．

フィルタキーについて

辞書検索は，検索キーとフィルタキーとの組み合わせで行うことができます．ただし，検索キーは，最低でも 1 つは指定されていなければなりません．各辞書の検索ダイアログボックスでは，検索キーとフィルタキーの区別をつけるため，フィルタキーについては，フィールド名の前に '+' を表示しています．

検索時間と結果表示

辞書検索は，システム辞書中のインデックス部分を二分探索することにより実現されています．このため，辞書検索の結果が大量になる場合，ディスクアクセスが数多く発生し，検索にかなりの時間がかかることがあります．その間，中断はできません．

検索中は，マウスカーソルが砂時計の形になり，クリックは無効です．数分間戻ってこないこともありますが，ハングアップしているわけではありませんので，しばらくお待ち下さい．

特に以下のような検索を行なった場合，検索にかなりの時間がかかることがありますので，ご注意下さい．

- 概念体系辞書を，「上位概念」のみを指定して検索した場合
- 単語 / 対訳 / 共起辞書を，「前方一致」で検索した場合
- 共起辞書を，エントリ数の多い単語見出しで検索した場合
- 専門用語辞書などで，先頭数文字が同じであるレコードが多数あるものを検索した場合

また，検索結果の格納領域は，メモリ容量の許す限り確保できますが，結果が大量にある場合，すべての情報を表示できないことがあります．その場合は，複数検索キーや，フィルタキーなどを使い，検索結果ができるだけ少なくするようにして下さい．

検索結果が大量になると，「...情報が多すぎます」というメッセージボックスが表示されますが，可能なレコードまでは表示されます．

4.4.1 単語辞書検索

検索キーの入力

検索キー，フィルタキー，検索モードの指定は，単語辞書検索ダイアログボックスで行います．単語辞書検索ダイアログボックスは，[検索]- [単語辞書検索](Ctrl+W) コマンドで起動します．図 4.4 にダイアログボックスを示します．

ここで，検索キー，フィルタキー，検索モードを入力します．検索キーとして指定できるのは，

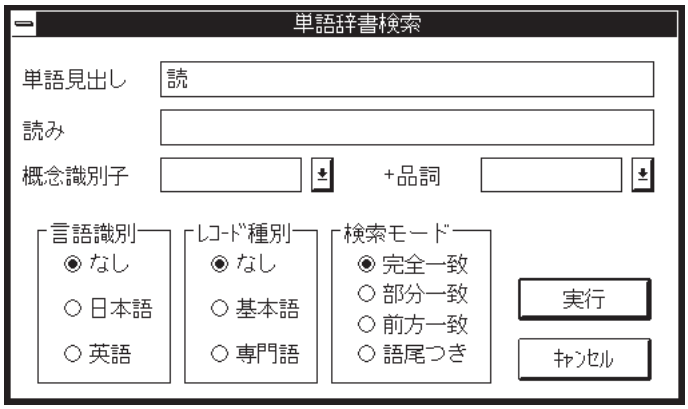


図 4.4 単語辞書検索ダイアログボックス

以下の３種類です

単語見出し
読み
概念識別子

上記３種類の検索キーのうち，必ず一つは指定するようにして下さい．複数指定することも可能ですが，その場合，２つ目以降のキーは，検索結果に対する制約条件となります．

なお，単語見出し / 読みは，通常単語の不変化部分を入力します．語尾つき単語で検索したい場合には，検索モードを「語尾つき」にして下さい (語尾つき検索は，完全一致検索に比べ，若干時間がかかります) ．

フィルタキーとして指定できるのは，以下の３種類です．

品詞
言語識別
レコード種別 (基本語 / 専門用語の別)

品詞はコンボボックスで入力，言語識別とレコード種別は，ラジオボタンで指定します．言語識別，レコード種別ラジオボタンは，ダイアログボックス起動時には，「なし」(種別を指定しない) が選択されています．

ただし，品詞はコードで入力するようになっているので，言語識別が指定されていないと，フィルタキーとしての意味を持ちません．また，品詞入力にはコンボボックスを利用できますが，言語識別が指定されないと，品詞コードの一覧が表示されません．品詞をフィルタキーとして指定する場合は，先に言語識別を指定するようにして下さい．

最後に，検索モードを指定します．各検索モードと，その動作については，4.2.2に示した通りです．

検索キー入力，フィルタキー指定が完了したら，【実行】をクリックして下さい．辞書の検索を開始します．

検索結果の表示

検索が終了すると，図 4.5に示す検索結果表示ダイアログボックスが起動します．

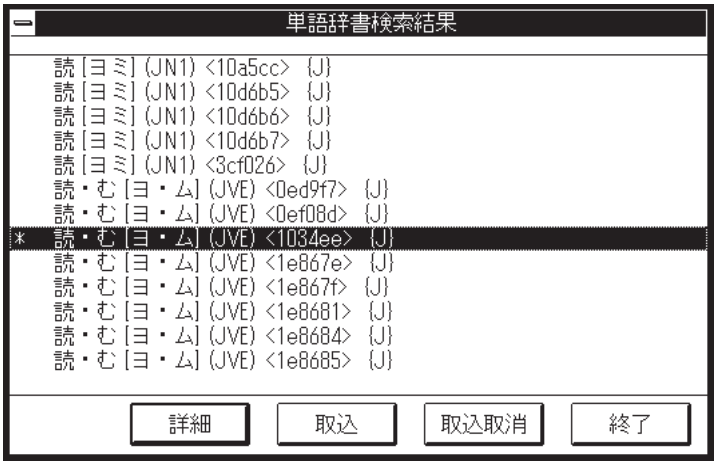


図 4.5 単語辞書検索結果表示

ここでは，検索結果がリスト表示されます．リストボックス内で，表示されている辞書レコードをクリックすると，反転表示となり，「詳細表示」「取込」「取込取消」操作の対象となります．また，レコードをダブルクリックすると，そのレコードを詳細表示します（選択後に【詳細】をクリックした場合と同様）．

各ボタンの動作は，以下の通りです．

【詳細】　選択されている辞書レコードを詳細表示します．

【取込】　選択されている辞書レコードを，ユーザ情報への取り込みの対象とします．

【取込取消】　選択されている辞書レコードを，ユーザ情報への取り込みの対象から除外します．

【終了】　表示ダイアログボックスを消去し，メインウィンドウの入力待ち状態に戻ります．取り込みが指定されている場合には，該当する辞書レコードをユーザ情報に取り込みます．

【取込】がクリックされると，辞書レコードの先頭に '*' が表示され，当該辞書レコードがユーザ情報への取り込みの対象となったことを示します．また，取り込み対象である辞書レコードを選択し，【取込取消】をクリックすると，先頭の '*' が消え，取込対象から除外されます．

取込は，複数指定することが可能です．また，辞書レコードが選択されていない状態で【取込】がクリックされると，先頭の辞書レコードを取り込みの対象にします．

【詳細】がクリックされると，図 4.6 に示す詳細表示ダイアログボックスが起動します．辞書レコードが選択されていない場合には，先頭レコードが詳細表示の対象となります．

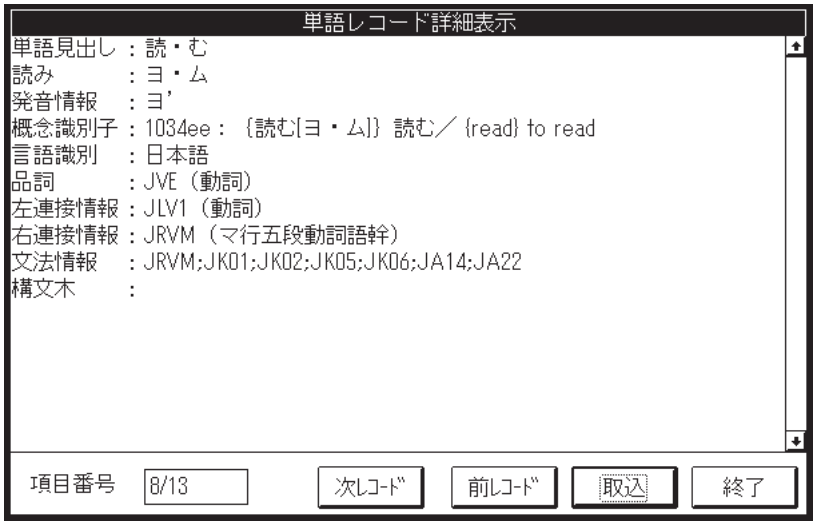


図 4.6　単語レコード詳細表示

ここでは，指定された辞書レコードの全ての情報を表示します．また，次のレコードや前のレコードを詳細表示したり，現在のレコードを取込の対象に指定することも可能です．

各ボタンの動作は，以下の通りです．

【次レコード】　次の辞書レコードを詳細表示します．次のレコードがない場合には，ボタンはセンシティブになりません．

【前レコード】　一つ前の辞書レコードを詳細表示します．一つ前のレコードがない場合には，ボタンはセンシティブになりません．

【取込】　現在詳細表示している辞書レコードを取込対象とします．

【終了】　詳細表示ダイアログボックスを消して，検索結果表示ダイアログボックスに戻ります．

詳細表示，取込の指定などが完了したら，【終了】ボタンをクリックすると，検索結果ダイアログボックスが消去されます．その際，取込対象に指定されていた辞書レコードが，ユーザ情報中に取りこまれます．

注意点

システム辞書では，慣用句に対する単語見出しとして，構成語の先頭 1 単語のみを格納しています．このため，例えば検索キー「足」で，完全一致による検索を実行すると，「足を棒にする」のような慣用句のレコードも一緒に検索されてきます．これらの区別は，「読み」のフィールドで行ってください (日本語の慣用句の場合「アシ/ヲ/ボウ/ニ/ス」のようなカナ表記が，英語の慣用句の場合，音節区切りのかわりに構成語見出しが，読みのフィールドに格納されています)．

表示形式

各ユーザ情報表示モードにおける，単語レコードの表示形式は，以下に示す通りです．なお，検索結果表示ダイアログボックスでは，各辞書レコードは「簡約表示」モード時と同様の形式で，詳細表示ダイアログボックスでは，「詳細表示」モード時と同様の形式で表示されます．

簡約表示モード時

〈単語見出し〉[〈読み〉](〈品詞〉)<〈概念識別子〉> {〈言語識別〉}¥n

〈言語識別〉 ::= J | E | TJ | TE

※ J は日本語，E は英語を表す．また T は専門用語であることを表す．

省略表示モード時

単語見出し：〈単語見出し〉[〈読み〉]{〈言語識別〉}¥n
〈発音 / 構成語表示〉¥n
概念識別子：〈概念識別子〉:〈概念見出し文字列〉¥n
品詞 / 連接：〈品詞〉(〈左連接情報〉,〈右連接情報〉)¥n
文法情報　：〈文法情報〉
構文木　：〈構文木〉

〈発音 / 構成語表示〉::= 発音情報：〈発音情報〉 | 構成語情報：〈構成語情報〉
〈言語識別〉 ::= J | E | TJ | TE

※〈文法情報〉〈構文木〉は，データが無い場合にはフィールド名も含めて表示されない．

詳細表示モード時

単語見出し：〈単語見出し〉
読み　　：〈読み〉
〈発音 / 構成語表示〉¥n
概念識別子：〈概念識別子〉:〈概念見出し文字列〉¥n
言語識別　：〈言語識別〉
品詞　　：〈コード表示〉¥n
左連接情報：〈コード表示〉¥n
右連接情報：〈コード表示〉¥n
文法情報　：〈文法情報〉
構文木　：〈構文木〉

〈発音 / 構成語表示〉::= 発音情報：〈発音情報〉 | 構成語情報：〈構成語情報〉
〈言語識別〉::= "日本語" | "英語" | "日本語 (専門用語) " | "英語 (専門用語) "
〈コード表示〉::=〈コード文字列〉 | 〈コード文字列〉 (〈コード説明〉)

※ 〈コード表示〉は，「コード説明表示モード」の ON/OFF により異なる．

4.4.2 対訳辞書検索

検索キーの入力

検索キー，フィルタキー，検索モードなどの指定は，対訳辞書検索ダイアログボックスで行います．対訳辞書検索ダイアログボックスは，[検索]-[対訳辞書検索](Ctrl+B)コマンドで起動します．図 4.7 にダイアログボックスを示します．

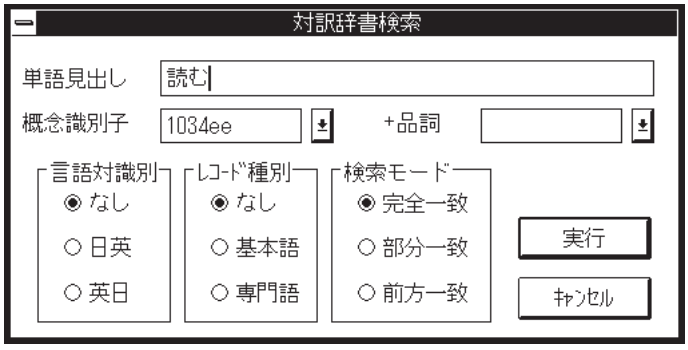


図 4.7 対訳辞書検索ダイアログボックス

ここで，検索キー，フィルタキー，検索モードなどを入力します．検索キーとして指定できるのは，以下の 2 種類です

単語見出し
概念識別子

上記 2 種類の検索キーのうち，必ず一つは指定するようにして下さい．両方指定することも可能ですが，その場合，概念識別子は検索結果に対する制約条件となります．

なお，対訳辞書では，単語見出しは「語尾つき」で格納されていますので，検索キーはは語尾つき単語を入力して下さい．

フィルタキーとして指定できるのは，以下の 3 種類です．

品詞
言語対識別
レコード種別（基本語 / 専門用語の別）

フィルタキーの指定，検索モードの指定は，単語辞書検索ダイアログボックスと同様です．

検索キー入力，フィルタキー指定が完了したら，【実行】をクリックして下さい．辞書の検索を開始します．

検索結果の表示

検索が終了すると，図 4.8に示す検索結果表示ダイアログボックスが起動します．

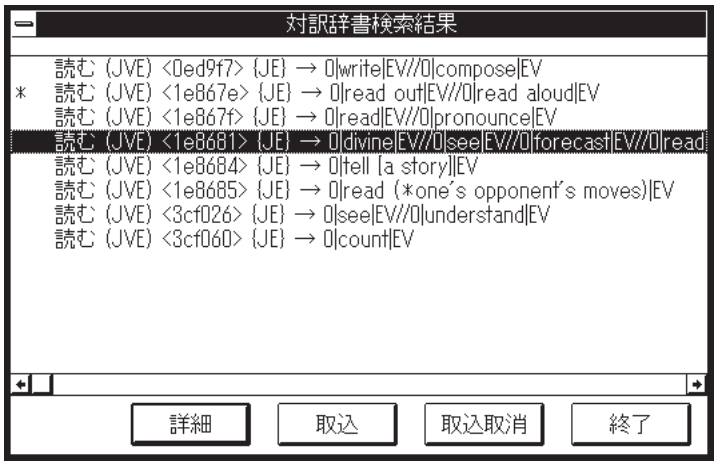


図 4.8　対訳辞書検索結果表示

以降の動作は，単語辞書検索の場合とまったく同様です．また，図 4.9に示す詳細表示ダイアログボックスの動作も，単語辞書検索時と同様です．

表示形式

各ユーザ情報表示モードにおける，共起レコードの表示形式は，以下に示す通りです．なお，検索結果表示ダイアログボックスでは，各辞書レコードは「簡約表示」モード時と同様の形式で，詳細表示ダイアログボックスでは，「詳細表示」モード時と同様の形式で表示されます．

なお，対訳情報の格納形式は，テキスト辞書の形式とまったく同じです．すなわち，以下の通りです．

〈対訳情報〉 ::= 〈訳語情報〉 | 〈対訳情報〉//〈訳語情報〉
〈訳語情報〉 ::= 〈訳語種別〉'|'〈訳語表記〉'|'〈訳語品詞〉

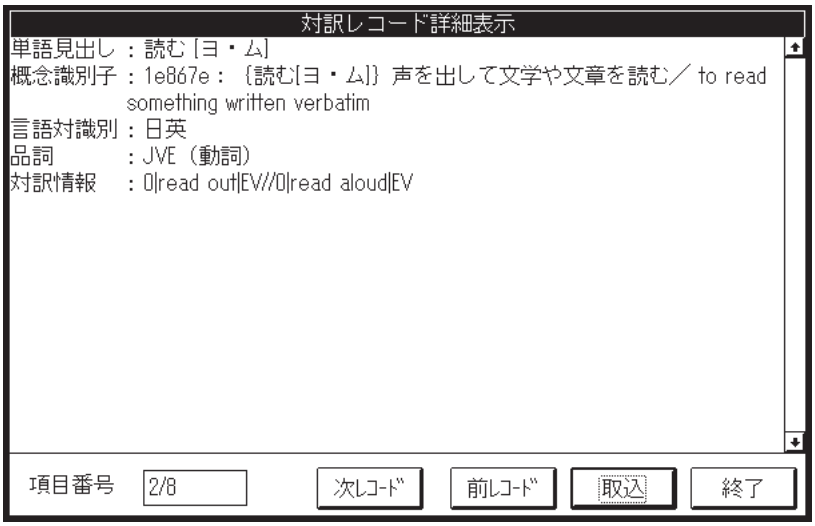


図 4.9 対訳レコード詳細表示

簡約表示モード時

〈単語見出し〉(〈品詞〉)<〈概念識別子〉>{〈言語対識別〉}→ 〈対訳情報〉¥n

〈言語対識別〉::= "JE" | "EJ" | "TJE" | "TEJ "

※ JE は，EJ は英日を表す．また T は専門用語であることを表す．

省略表示モード時

単語見出し：〈単語見出し〉[〈読み〉]{〈言語対識別〉}¥n
概念識別子：〈概念識別子〉:〈概念見出し文字列〉¥n
対訳情報 ：〈対訳情報〉

〈言語対識別〉::= "JE" | "EJ" | "TJE" | "TEJ "

※ [〈読み〉] が表示されるのは，日英の場合のみ

詳細表示モード時

単語見出し：〈単語見出し〉[〈読み〉]
概念識別子：〈概念識別子〉:〈概念見出し文字列〉¥n
言語対識別：〈言語対識別〉
品詞 ：〈コード表示〉¥n
対訳情報 ：〈対訳情報〉

〈言語対識別〉::= "日英" | "英日" | "日英（専門用語）" | "英日（専門用語）"
〈コード表示〉::=〈コード文字列〉 | 〈コード文字列〉(〈コード説明〉)

※ 〈コード表示〉は，「コード説明表示モード」の ON/OFF により異なる．

4.4.3 共起辞書検索

検索キーの入力

検索キー，フィルタキー，検索モードなどの指定は，共起辞書検索ダイアログボックスで行います．共起辞書検索ダイアログボックスは，[検索]ー[共起辞書検索](Ctrl+C)コマンドで起動します．図 4.10にダイアログボックスを示します．

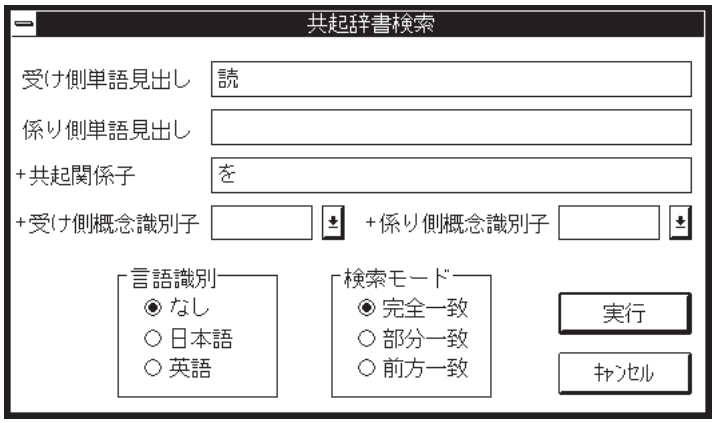


図 4.10 共起辞書検索ダイアログボックス

ここで，検索キー，フィルタキー，検索モードなどを入力します．検索キーとして指定できるのは，以下の 2 種類です．

受け側単語見出し
係り側単語見出し

上記 2 種類の検索キーのうち，必ず一つは指定するようにして下さい．両方指定することも可能ですが，その場合，係り側単語見出しは検索結果に対する制約条件となります．

なお，共起辞書では，各単語見出しは単語の不変化部分を格納していますので，検索キーとしては不変化部分を入力して下さい．

フィルタキーとして指定できるのは，以下の 4 種類です．

共起関係子
言語識別
受け側概念識別子
係り側概念識別子

共起関係子は，テキスト文字列で入力します．言語識別は，ラジオボタンで指定して下さい．その他の動作は，単語辞書検索の場合と同様です．

検索キー入力，フィルタキー指定が完了したら，【実行】をクリックして下さい．辞書の検索を開始します．

検索結果の表示

検索が終了すると，図 4.11に示す検索結果表示ダイアログボックスが起動します．

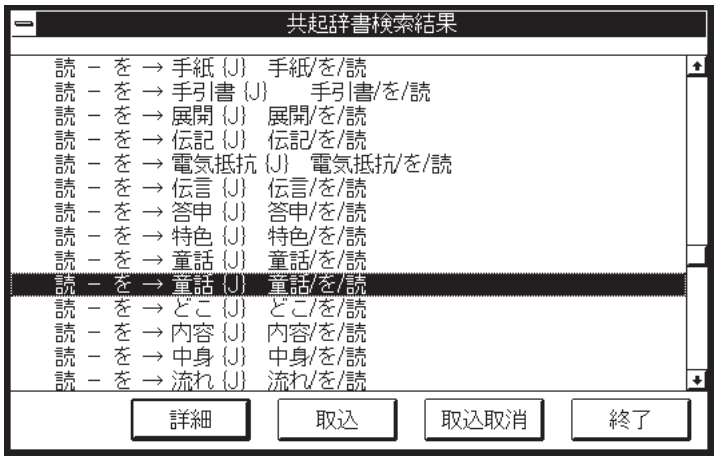


図 4.11 共起辞書検索結果表示

以降の動作は，単語辞書検索の場合とまったく同様です．また，図 4.12に示す詳細表示ダイアログボックスの動作も，単語辞書検索時と同様です．

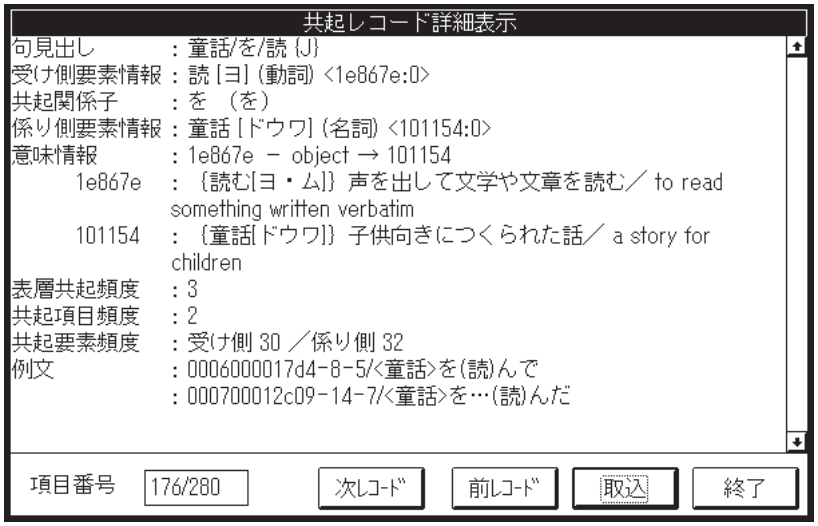


図 4.12 共起レコード詳細表示

表示形式

各ユーザ情報表示モードにおける，共起レコードの表示形式は，以下に示す通りです．なお，検索結果表示ダイアログボックスでは，各辞書レコードは「簡約表示」モード時と同様の形式で，詳細表示ダイアログボックスでは，「詳細表示」モード時と同様の形式で表示されます．

なお，共起辞書中には，概念関係子が "nil" であるレコードがあります．これは，意味情報が格

納されていないレコードですので，表示時には，意味情報のフィールドが "(nil)" と表示されます．

簡約表示モード時

〈受け側単語見出し〉−〈共起関係子〉→〈係り側単語見出し〉
{〈言語識別〉} 〈句見出し〉

〈言語識別〉 ::= J | E
※ J は日本語，E は英語を表す．

省略表示モード時

句見出し : 〈句見出し〉{〈言語識別〉}¥n
表層共起情報：〈受け側単語見出し〉<〈受け側概念識別子〉> −
〈共起関係子〉→〈係り側単語見出し〉<〈係り側概念識別子〉>¥n
意味情報 : 〈受け側概念識別子〉−〈概念関係子〉→ 〈係り側概念識別子〉¥n
〈始点概念識別子〉：〈概念見出し文字列〉¥n
〈終点概念識別子〉：〈概念見出し文字列〉¥n
頻度情報 ：表層共起頻度〈表層共起頻度〉/ 共起項目頻度〈共起項目頻度〉
/ 共起要素頻度〈受け側共起要素頻度〉/〈係り側共起要素頻度〉¥n
例文 :〈例文〉¥n

〈言語識別〉 ::= J | E

※意味情報中の始点 / 終点概念識別子と，受け側 / 係り側概念識別子との対応は，共起レコード中の「関係子方向」データ (陽には表示されない) の内容に応じて異なる．

詳細表示モード時

句見出し : 〈句見出し〉{〈言語識別〉}¥n
受け側要素情報：〈受け側単語見出し〉[〈受け側単語補助情報〉]
(〈受け側品詞〉)<〈受け側概念識別子〉:〈受け側慣用句フラグ〉>¥n
共起関係子 : 〈共起関係子〉(〈共起関係子補助情報〉) ¥n
係り側要素情報：〈係り側単語見出し〉[〈係り側単語補助情報〉]
(〈係り側品詞〉)<〈係り側概念識別子〉:〈係り側慣用句フラグ〉>¥n
意味情報 : 〈受け側概念識別子〉−〈概念関係子〉→ 〈係り側概念識別子〉¥n
〈始点概念識別子〉：〈概念見出し文字列〉¥n
〈終点概念識別子〉：〈概念見出し文字列〉¥n
表層共起頻度 ：〈表層共起頻度〉¥n
共起項目頻度 ：〈共起項目頻度〉¥n
共起要素頻度 ：受け側〈受け側共起要素頻度〉/ 係り側〈係り側共起要素頻度〉¥n
例文 :〈例文〉¥n

〈言語識別〉 ::= J | E

※例文は，複数ある場合には，一例文ごとに改行して表示．

4.4.4 概念体系辞書検索

検索キーの入力

検索キーの入力は，概念体系辞書検索ダイアログボックスで行います．概念体系辞書検索ダイアログボックスは，[検索]-[概念体系辞書検索](Ctrl+T)コマンドで起動します．図 4.13にダイアログボックスを示します．

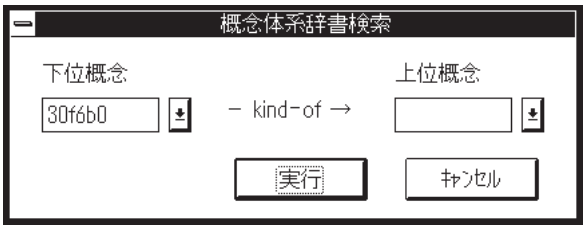


図 4.13 概念体系辞書検索ダイアログボックス

検索キーは，以下の 2 種類が指定できます．

下位概念
上位概念

入力が完了したら，【実行】をクリックすると検索を開始します．

検索結果の表示

検索が終了すると，図 4.14に示す検索結果表示ダイアログボックスが起動します．

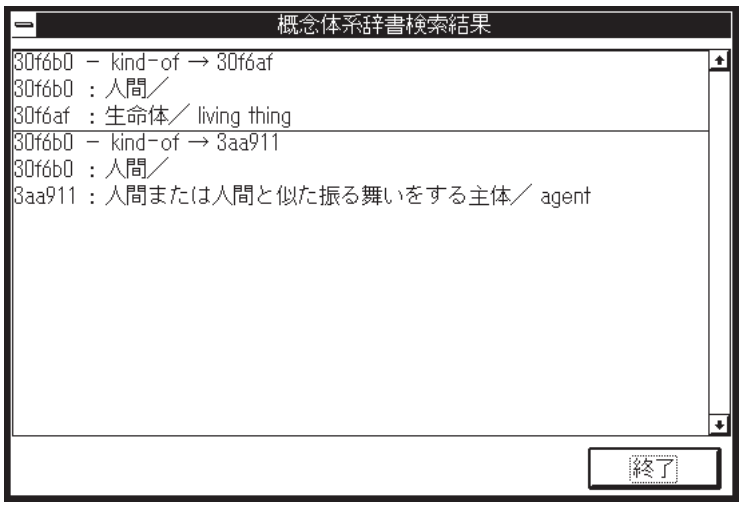


図 4.14 概念体系辞書検索結果表示

リストボックス内では，各レコードを以下の形式で表示しています．

〈下位概念〉- kind-of→ 〈上位概念〉¥n
〈下位概念〉:〈概念見出し文字列〉¥n
〈上位概念〉:〈概念見出し文字列〉¥n

ただし，概念見出し文字列が一行におさまらない場合には，折り返し表示されます．各レコードの間には，仕切り線が引かれます．

ここで，レコードをクリックすると，反転表示となり，そのレコードがユーザ情報への取り込みの対象となったことを示します．再度クリックすると，通常表示に戻り，取込対象から除外されます．

【終了】をクリックすると，ダイアログボックスは消去され，取込対象に指定されたレコードがユーザ情報中に取り込まれます．

表示形式

ユーザ情報中の概念体系レコードは，簡約表示モード時には，概念見出しの行を省略し，1 行で表示しますが，それ以外のモードの場合には，検索結果表示ダイアログボックスでの表示形式と同じです．

4.4.5 概念記述辞書検索

検索キーの入力

検索キーの入力は，概念記述辞書検索ダイアログボックスで行います．概念記述辞書検索ダイアログボックスは，[検索]- [概念記述辞書検索](Ctrl+R)コマンドで起動します．図 4.15にダイアログボックスを示します．

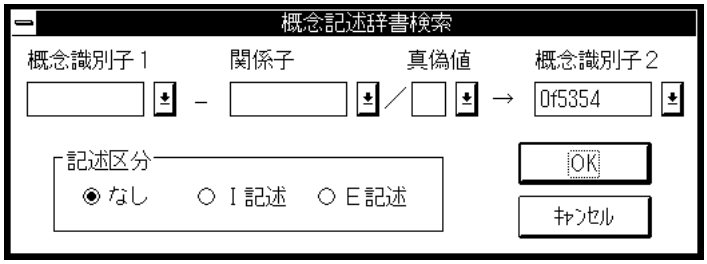


図 4.15 概念体系辞書検索ダイアログボックス

検索キーは，以下の 2 種類が指定できます．

概念識別子 1（始点側）
概念識別子 2（終点側）

両方指定することも可能ですが，その場合，概念識別子 2 は，フィルタキーとして働きます．

フィルタキーとして指定できるのは，以下の 3 種類です．

関係子
真偽値
記述区分

関係子，真偽値は，コンボボックスにより入力できます．真偽値として入力できるのは，0,1 のみです．記述区分は，ラジオボタンにより入力します．このラジオボタンは，起動時には「なし」に設定されています．

入力が完了したら，【実行】をクリックすると検索を開始します．

検索結果の表示

検索が終了すると，図 4.16に示す検索結果表示ダイアログボックスが起動します．

図 4.16　概念記述辞書検索結果表示

リストボックス内では，各レコードを以下の形式で表示しています．

〈概念識別子１〉−〈関係子〉 /〈真偽値〉→〈概念識別子２〉(〈記述区分〉)¥n
〈概念識別子１〉:〈概念見出し文字列〉¥n
〈概念識別子２〉:〈概念見出し文字列〉¥n

ダイアログボックスの動作は，概念体系辞書の場合とまったく同様です．

表示形式

ユーザ情報中の概念記述レコードは，簡約表示モード時には，概念見出しの行を省略し，１行で表示しますが，それ以外のモードの場合には，検索結果表示ダイアログボックスでの表示形式と同じです．

4.4.6　概念見出し辞書検索

各辞書レコード表示時には，そのレコードに格納されている概念識別子に対し，概念見出し辞書を参照して，概念見出し文字列を表示するように設計されていますので，概念見出し辞書の検索は通常あまり必要ありません．ただし，概念見出し辞書レコードも，その他の辞書レコードと同様にユーザ情報中に取り込んで編集することができますので，ユーザ情報中に概念見出しレコードを 取り込みたい場合などに，この検索が有効です．

検索キーの入力

検索キーの入力は，概念見出し辞書検索ダイアログボックスで行います．概念見出し辞書検索ダイアログボックスは ,[検索]− [概念見出し辞書検索](Ctrl+F)コマンドで起動します．図 4.17 にダイアログボックスを示します．

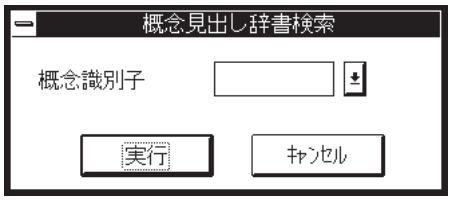


図 4.17　概念見出し辞書検索ダイアログボックス

検索キーとして指定できるのは，概念識別子のみです．

入力が完了したら，【実行】をクリックすると検索を開始します．

検索結果の表示

検索が終了すると，図 4.18に示す検索結果表示ダイアログボックスが起動します．

図 4.18　概念見出し辞書検索結果表示

概念見出し辞書では，概念識別子 1 つに対して，複数のレコードが存在することはありません．
概念見出し辞書レコードをユーザ情報へ取り込む場合には，ここで【取込】をクリックします．
概念見出しの場合，一度取り込みが設定されると，取消はできませんので，ご注意下さい．

【終了】をクリックすると，ダイアログボックスが消去され，レコードが取込指定されている場合には，ユーザ情報中に取り込まれます．

表示形式

各ユーザ情報表示モードにおける，概念見出しレコードの表示形式は，以下に示す通りです．
なお，検索結果表示ダイアログボックスでは，各辞書レコードは「詳細表示」モード時と同様の形式で表示されます．

簡約表示モード時

〈概念識別子〉

※概念識別子のみを表示する．

省略表示モード時

〈概念識別子〉：〈概念見出し文字列〉¥n

詳細表示モード時

概念識別子　　：〈概念識別子〉¥n
日本語概念見出し：〈日本語概念見出し〉¥n
英語概念見出し　：〈英語概念見出し〉¥n
日本語概念説明　：〈日本語概念説明〉¥n
英語概念説明　　：〈英語概念説明〉¥n

4.4.7　上位概念検索

上位概念検索とは，概念体系辞書を使い，ある概念識別子が，概念体系中でどのような分類の下にあるか，を表示するものです．検索結果は表示のみで，ユーザ情報への取り込み機能はありません．

検索キーの入力

検索キーの入力は，上位概念検索ダイアログボックスで行います．上位概念検索ダイアログボックスは，[検索]- [上位概念検索](Ctrl+O)コマンドで起動します．図 4.19にダイアログボックスを示します．

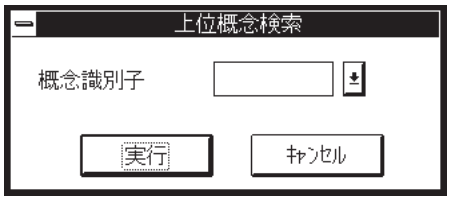


図 4.19　上位概念検索ダイアログボックス

検索キーとして指定できるのは，概念識別子のみです．

入力が完了したら，【実行】をクリックすると検索を開始します．

検索結果の表示

検索が終了すると，図 4.20に示す検索結果表示ダイアログボックスが起動します．

検索結果は，以下のフォーマットで表示されます．

〈番号〉〈概念識別子〉:〈概念見出し文字列〉

先頭の番号は，入力された概念識別子を 0 として，そこから体系上でいくつ上位の概念であるか，を表示するものです．また，各行の先頭は，一つ上位の概念になるごとに，一定文字数分インデントして表示されます．

※上位概念検索では，検索結果のすべての概念識別子に対して，概念見出し辞書を検索します．このため，検索終了までに多少の時間がかかります．

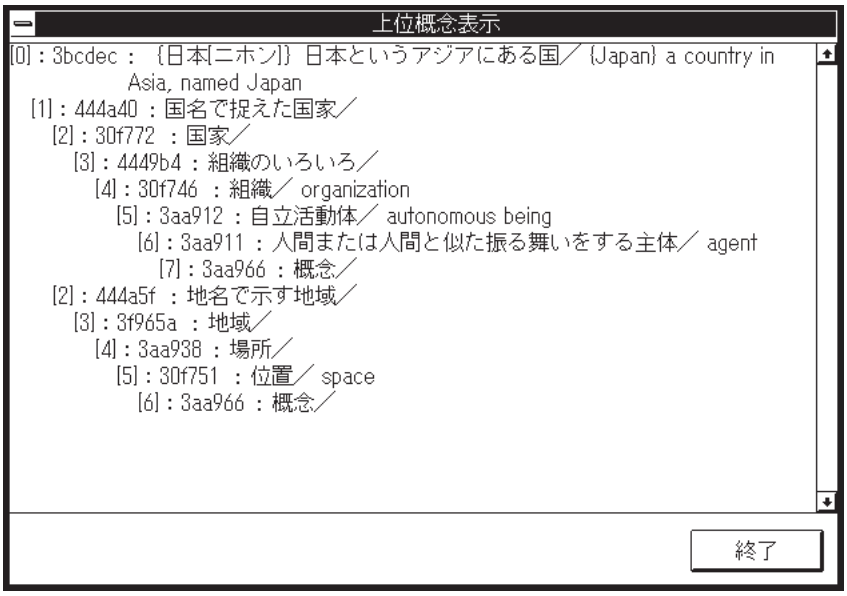
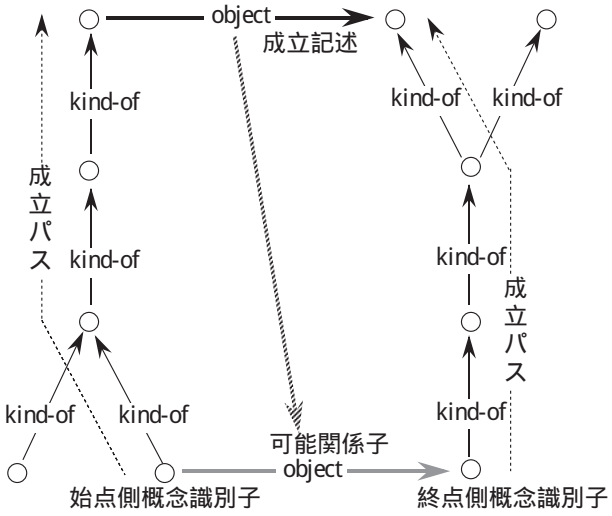


図 4.20　上位概念検索結果表示

4.4.8　可能関係子検索

可能関係子検索とは，概念記述辞書と概念体系辞書を利用して，ある特定の 2 概念間に，どのような概念関係が成り立ち得るか，を調べるものです．



すなわち，検索キーとして指定された 2 つの概念識別子（始点 / 終点）の上位概念を検索し，両者の上位概念をそれぞれ始点 / 終点として持つ概念記述があるかどうか，を検索します．概念体系の継承機能により，ここで検索された概念記述における関係子が，検索キーとして指定した 2 概念間にも成り立ち得る「可能関係子」となります．概念記述が複数検索されれば，複数の関係が 2 概念間に成り立つことになります．

なお，真偽値 0 の概念記述は，「その関係が成立しない」ことを意味しますので，可能関係子検索では，真偽値 1 の概念記述に到達するまでの経路（成立パス）上に，同じ関係子を持つ真

偽値 0 の概念記述が存在する場合には，その関係は成り立たないものとしています．

検索の実行

[検索]- [可能関係子検索](Ctrl+P) コマンドにより，図 4.21 に示すダイアログボックスが起動します．

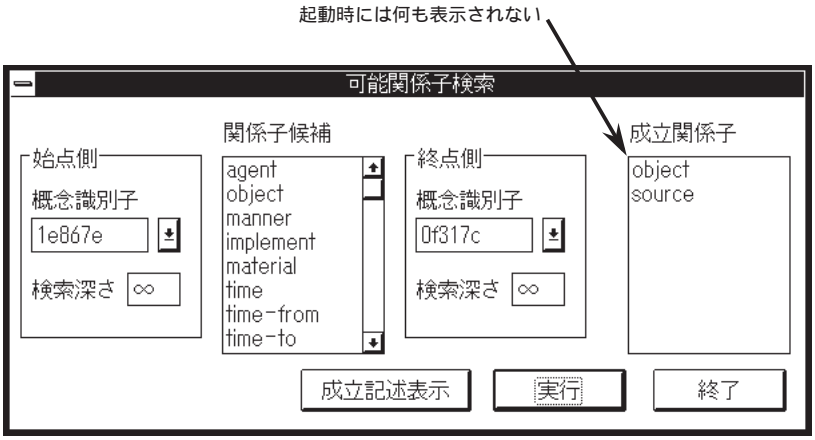


図 4.21　可能関係子検索ダイアログボックス

このダイアログボックスの動作は，他の検索ダイアログと多少異なります．まず，関係を調べたい 2 つの概念識別子 (始点，終点) を入力します．片方のみの指定では検索できません．

可能関係子検索では，あらかじめ関係子の候補を指定することができます．例えば，agent, object, implementのうちで 2 概念間に成り立つ関係はどれか，という検索が可能です．この場合には，中央の「関係子候補」リストボックスで，候補としたい関係子をクリックして反転させて下さい．候補は複数指定できます．なお，ここで何も指定しなかった場合には，すべての関係子を候補として検索を実行します．

最後に，「検索深さ」を設定します．検索深さとは，検索対象となる概念から，概念体系上で，何レベル上位の概念までを検索範囲とするか，を示します．デフォルトでは "∞" が表示されています．これは，深さ指定なし (すなわち概念体系上をすべて検索すること) を示しています．例えば，上位 5 レベルまでを検索範囲としたければ，始点 / 終点側の検索深さフィールドに 5 を入力して下さい．始点，終点に別々の深さを指定することも可能です．なお，数値は必ず半角文字で入力して下さい．

すべての指定が完了したら，【実行】をクリックします．検索が完了すると，右端の「成立関係子」リストボックス中に，対象となった 2 概念間に成立し得る関係子を一覧表示します．

ここで，【終了】をクリックすると，可能関係子検索を終了してメインウィンドウに戻りますが，可能関係子検索では，単に成立した関係子を表示するだけでなく，より詳細な情報を表示することができます．以下にその方法を述べます．

なお，ここで再度【実行】をクリックすると，同じ検索を再度実行しますので，ご注意下さい．

詳細情報の表示

実行が終了すると，【成立記述表示】ボタンがセンシティブになります．このボタンは，成立

した関係子が，どの概念記述レコードから導かれたものか，を表示するためのものです．一つの関係子が，複数の概念記述レコードから導かれた場合もありますが，その場合には，複数の概念記述を表示します．

最初に「成立関係子」リストボックス中で，概念記述レコードを表示させたい関係子を指定します．関係子は複数指定できます．また，何も指定しなかった場合には，すべての関係子を表示の対象とします．

指定が完了したら，【成立記述表示】をクリックして下さい．図 4.22に示す成立記述表示ダイアログボックスが起動します．

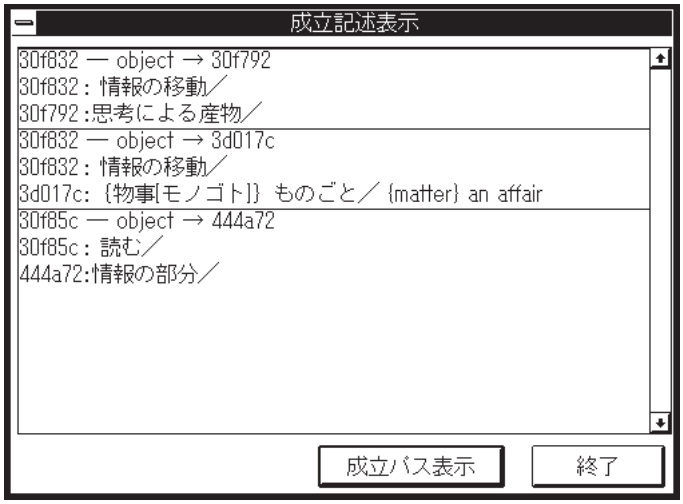


図 4.22　成立記述表示

ここでの操作は，「概念記述辞書検索結果表示」に似ています．レコードは，以下の形式でリスト表示されます．

〈概念識別子１〉－〈関係子〉→〈概念識別子２〉¥n
〈概念識別子１〉:〈概念見出し文字列〉¥n
〈概念識別子２〉:〈概念見出し文字列〉¥n

成立した関係子は真偽値が1であるもののみですので，真偽値の表示を省略しています．

ここで，【終了】をクリックすると，ダイアログボックスが消去され，可能関係子検索ダイアログボックスに戻ります．

【成立パス表示】ボタンは，表示されている概念記述から，検索キーとなった 2 つの概念まで，概念体系上のどのようなパスを経由しているか，を表示するためのものです．

まず，パスを調べたい概念記述レコードをクリックし，反転表示させます．一度に複数指定することも可能です．また，概念記述レコードが一つも指定されなかった場合には，全ての記述をパス表示対象とします．

指定が完了したら，【成立パス表示】をクリックして下さい．図 4.23に示す，成立パス表示ダイアログボックスが起動します．

ここでの表示は，〈関係子〉より上側が，検索キーとして指定した始点側の概念識別子から，概念記述の始点概念にたどりつくまでの，概念体系上のパスを示しています．下側は，終点側

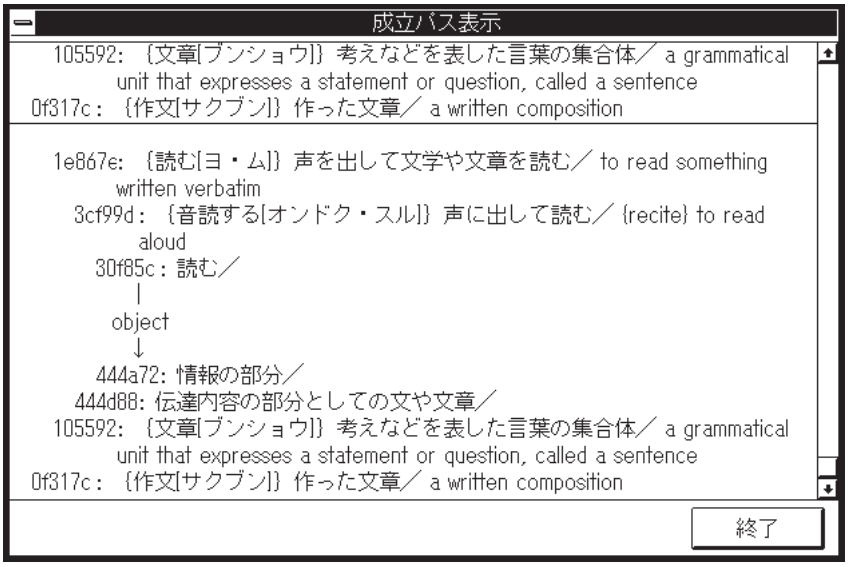


図 4.23　成立パス表示

のパスです．概念体系上で 1 つ上位になるごとに，右側に一定文字数分インデントして表示します．

複数の概念記述について，成立パス表示を実行した場合には，上記形式のパス情報が複数個表示され，個々のパス情報の間に仕切り線が引かれます．

【終了】をクリックすると，ダイアログボックスが消去され，成立記述表示ダイアログボックスに戻ります．

4.4.9　関連検索

関連検索とは，ユーザ情報に取り込んだレコードから，検索キー / フィルタキーとなり得るものを抽出して，これをもとに他の辞書を検索するためのインタフェースです．

まず，取りこまれているユーザ情報レコードのうち，関連検索のキーとしたいレコードをマウスで選択し，レコードIDを反転表示させます．次に ,[辞書検索]- [関連検索](Ctrl+A) を選択，あるいは レコードIDをダブルクリックすると，図 4.24に示す関連検索ダイアログボックスが起動します．

このダイアログボックスでは，3 種類の指定を行います．

検索対象辞書指定

ラジオボタンで，検索対象となる辞書を指定します．他の辞書だけでなく，ユーザ情報レコード自身が格納されていた辞書を指定することも可能です．起動時には，デフォルトで単語辞書が指定されています．

なお，ユーザ情報レコードが，概念体系，概念記述，概念見出しのいずれかである場合には，共起辞書は検索できませんので，共起辞書ラジオボタンはセンシティブではなくなります．

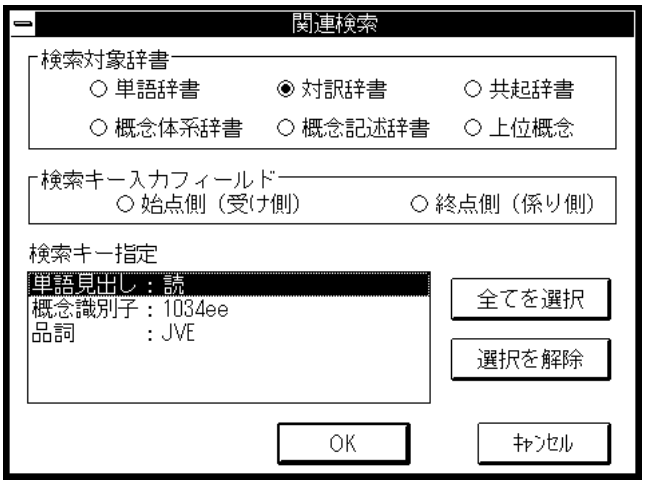


図 4.24　関連検索ダイアログボックス

また，辞書の指定は必ず最初に行って下さい．検索キーなどを指定してから，辞書指定を行なうと，指定した検索キーがリセットされてしまいます．

検索対象フィールド指定

このラジオボタンは，検索対象辞書が，概念体系辞書，概念記述辞書，共起辞書のいずれかの場合に限り，センシティブになります．例えば，単語辞書レコードの単語見出しから共起辞書を検索する場合に，受け側，係り側のどちらに検索キーを入力するのか，を指定するのがこのボタンです．

検索キー指定

検索キー指定リストボックスには，現在選択されているユーザ情報レコードの中から，検索キー／フィルタキーとなり得るものがリスト表示されます．どの辞書を検索対象とするかにより，検索キーとなり得るものが変化します．

ここで，どの情報を検索キー／フィルタキーとして採用するか，を指定します．リスト表示されているデータから，検索キーとしたいものをクリックして反転表示させて下さい．複数の指定が可能です．また，リストボックス横にある【全てを選択】ボタンは，一度に表示されているすべてのキーを選択します．【選択を解除】ボタンは，反転表示をクリアして，未選択状態に戻します．

指定の対象となる検索キーが一つしかない場合には，あらかじめ選択状態となります．

なお，ユーザ情報レコードが，概念記述／概念体系／共起のいずれかのレコードである場合には注意が必要です．リストボックスには，始点／終点（受け側／係り側）の両方の情報が表示されていますが，この双方を用いて他の辞書を検索することはできません．必ず，一つだけを指定（共起辞書の場合，受け側のペアか係り側のペアのみを指定）して下さい．また，これらのユーザ情報レコードの場合には，【全てを選択】ボタンはセンシティブにはなりません．

検索の実行

最後に，【OK】をクリックすると，検索に移ります．その際，検索キーの指定が不正であったり，指定が足りなかったりした場合には，エラーメッセージが表示されますので，再度指定をやり直して下さい．

検索実行時の動作は，「モード設定」ダイアログボックスで指定しているモードにより異なります．すなわち，「実行時に辞書検索ダイアログボックスを起動」が ON になっている場合には，指定された検索キーが各フィールドに入力された状態で，各辞書の検索ダイアログボックスが起動します．ここでより細かな指定をすることも可能です．その後の動作は，各辞書の検索手順と全く同様です．

モードが OFF の場合には，検索ダイアログボックスは起動せず，すぐに検索を開始します．検索結果が表示されてからの動作は，各辞書検索手順と同様です．

※ 共起辞書レコードから対訳辞書の検索（あるいはその逆）を実行する場合には注意して下さい．選択されているレコードが語尾を持つ場合，共起辞書には語尾なしで，対訳辞書には語尾つきでデータが格納されているため，検索に失敗します．この場合には，検索ダイアログボックスを起動するモードにしておき，起動したダイアログボックスで語尾を削って（あるいは付け足して）から，検索を実行して下さい．

なお，単語←→対訳の検索では，この問題はありません．単語→対訳では，語尾を自動的に追加し，対訳→単語では，語尾つき検索モードで検索します．

4.5 ユーザ情報の操作

辞書レコードが取り込まれると，メインウィンドウの表示が図4.25のようになります．

キーワード表示エリアには，現在のユーザ情報のキーワードが表示されます．これは，キーワー

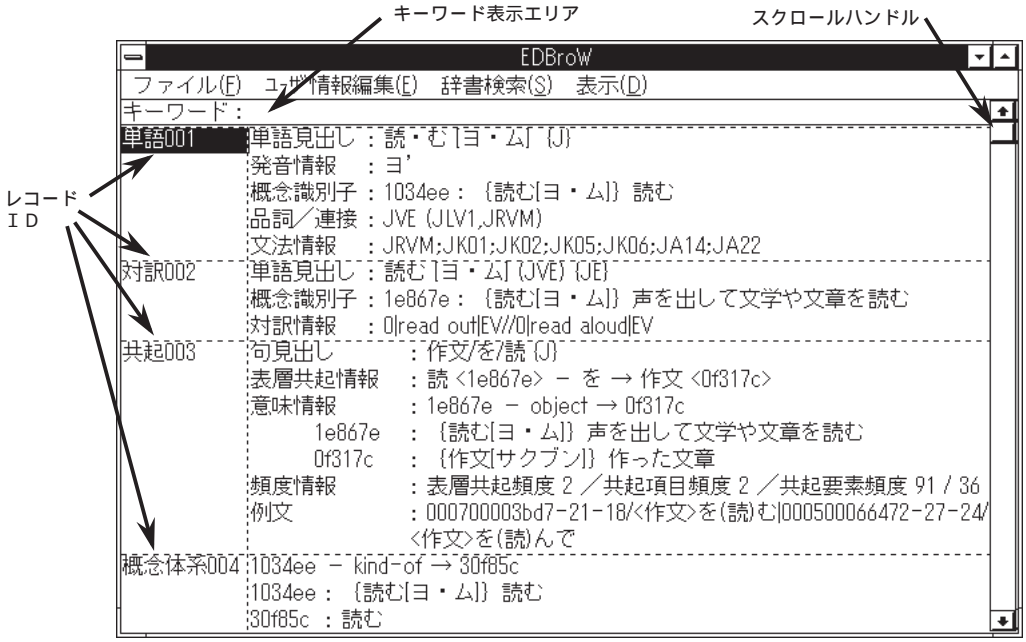


図 4.25 ユーザ情報の表示

ド設定ダイアログボックスにより，変更することが可能です．

また，レコードIDは，ユーザ情報の選択 / 非選択の対象となります．すなわち，ここでマウスをクリックすると，レコードIDが反転表示となり，変更 / コピー / 削除 / 関連検索の対象となります．再度クリックすると反転表示が解除され，非選択となります．なお，レコードIDをダブルクリックすると，関連検索が起動します．

ユーザ情報表示エリアでの，スクロールバーの動作は，以下のようになります．

- 【↑】をクリック
  ユーザ情報を，レコードの 1 フィールドづつ，上方向にスクロールします．ユーザ情報表示エリアの先頭行がユーザ情報の最初のレコードの第一フィールドである場合には，それ以上スクロールされません．
- 【↓】をクリック
  ユーザ情報を，レコードの 1 フィールドづつ，下方向にスクロールします．ユーザ情報表示エリアの先頭行がユーザ情報の最後のレコードの最終フィールドである場合には，それ以上スクロールされません．
- スクロールハンドルと【↑】の間をクリック
  ユーザ情報を，1 レコードづつ，上方向にスクロールします．ユーザ情報表示エリアの先頭行がユーザ情報の最初のレコードである場合には，それ以上スクロールされません．
- スクロールハンドルと【↓】の間をクリック
  ユーザ情報を，1 レコードづつ，下方向にスクロールします．ユーザ情報表示エリアの先頭行がユーザ情報の最後のレコードである場合には，それ以上スクロールされません．
- スクロールハンドルをドラッグ
  ユーザ情報を，1 レコードづつ，スクロールして表示します．スクロールハンドルを離した位置によって，先頭に表示されるユーザ情報が変化します．

4.5.1 ユーザ情報レコードの変更

最初に，ユーザ情報表示エリアで変更したいユーザ情報を選択します．次に，[ユーザ情報編集] – [変更](Ctrl+E) コマンドを選択すると，ユーザ情報の種類に応じて，各レコードの編集ダイアログボックスが起動します．

各ダイアログボックスの動作はほとんど同じです．ダイアログボックスには，以下の 4 つのボタンが用意されています．

【参照】　当該レコードに付与する参照情報を入力するための，「参照」ダイアログボックスを起動します．

【覚書】　当該レコードに付与する覚書情報を入力するための，「覚書」ダイアログボックスを起動します．

【OK】　ダイアログボックス上での変更事項をユーザ情報レコードに反映し，ダイア

ログボックスを終了します．ユーザ情報表示エリアが，変更の結果を受けて更新されます．

【キャンセル】　変更を中断します．

編集ダイアログボックスで，各フィールドの情報を編集して下さい．以下に，各レコードの編集ダイアログボックスごとに，入力時の注意点を記します．

単語レコード編集

図 4.26に，単語レコード編集ダイアログボックスを示します．

図 4.26　単語レコード編集ダイアログボックス

このダイアログボックスは，対象レコードが慣用句であるかないか（慣用句指定チェックボックスにより指定）によって，動作が異なります．

慣用句でない場合　「読み」の下の入力フィールドは，「発音情報」になります．また，「構文木」のフィールドはセンシティブになりません．

慣用句の場合　「読み」の下の入力フィールドは，「構成語情報」になります．また「構文木」のフィールドがセンシティブになりますが，「左連接情報」「右連接情報」のフィールドはセンシティブになりません．

言語識別はラジオボタンで，慣用句であるかないか，専門語であるかないか，はチェックボックスにより指定します．言語識別の指定により，「品詞」「左連接情報」「右連接情報」のコンボボックスのリスト表示が，それぞれの言語の文法コードに変わります．

概念識別子は，16進数6桁（半角）で入力して下さい．

対訳レコード編集

図 4.27に，対訳レコード編集ダイアログボックスを示します．

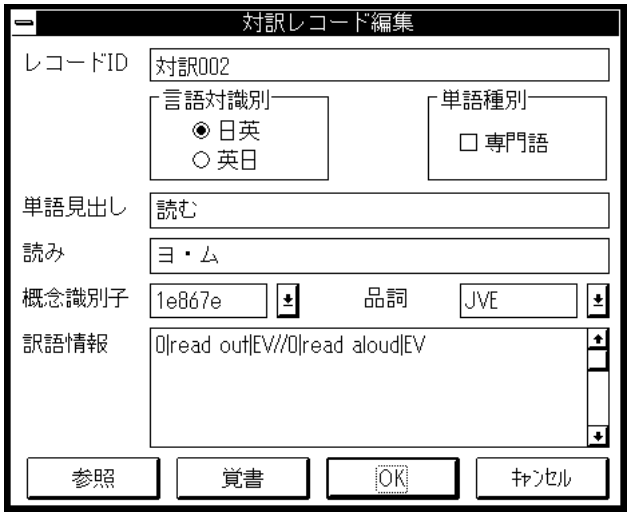


図 4.27　対訳レコード編集ダイアログボックス

言語対識別はラジオボタンで，専門用語であるかないか，はチェックボックスで，それぞれ指定します．言語対識別の指定によって，「品詞」コンボボックスの品詞リストが，各言語対に対応するものに変わります．概念識別子は，16進数6桁（半角）で入力して下さい．

共起レコード編集

図 4.28に，共起レコード編集ダイアログボックスを示します．

図 4.28　共起レコード編集ダイアログボックス

言語識別はラジオボタンで，受け側 / 係り側の慣用句フラグはチェックボックスで指定します．共起レコードの場合，言語識別を変更しても，品詞入力コンボボックスのリスト表示は変更されません．

関係子方向とは，表層共起情報（構文情報）と，意味情報との対応をとるためのものです．受け側概念識別子と，意味情報中の始点概念識別子が一致する場合には，↓ を，そうでない場合には↑ を指定します．

各概念識別子は，16進数6桁（半角）で，各頻度情報は10進整数（半角）で入力して下さい．また，例文中では，必ず受け側単語見出しは( )で，係り側単語見出しは< >でくくって下さい．

概念体系レコード編集

図 4.29に，概念体系レコード編集ダイアログボックスを示します．

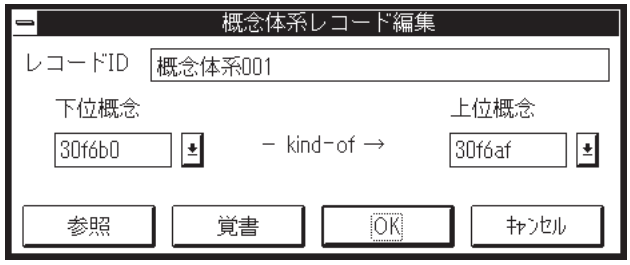


図 4.29 概念体系レコード編集ダイアログボックス

各概念識別子は，16進数6桁（半角）で入力して下さい．

概念記述レコード編集

図 4.30に，概念記述レコード編集ダイアログボックスを示します．

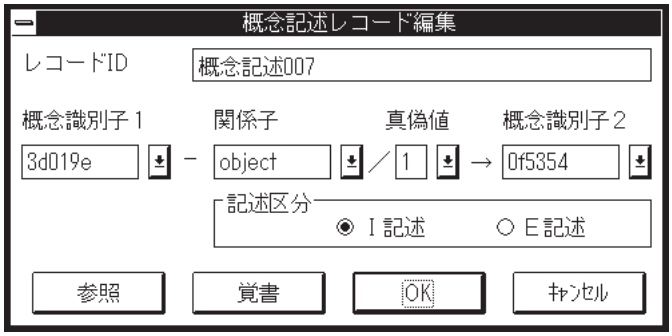


図 4.30 概念記述レコード編集ダイアログボックス

記述区分はラジオボタンで指定します．真偽値は，0 または 1（半角）を，概念識別子は，16進数6桁（半角）で，それぞれ入力して下さい．

概念見出しレコード編集

図 4.31に，概念見出しレコード編集ダイアログボックスを示します．

図 4.31　概念見出しレコード編集ダイアログボックス

概念見出しレコードは，ユーザ情報中の他のレコードが，表示の際に利用しています．したがって，ここでの変更結果は他のユーザ情報にも影響します（概念見出し文字列が変更されます）．

上記の理由により，データの整合性を保つため，レコード変更処理の場合には，このダイアログボックスの概念識別子のフィールドはセンシティブになりません（レコード新規作成の場合にはセンシティブになります）．

覚書情報の付与

各レコードの編集ダイアログで，【覚書】をクリックすると，図 4.32に示す覚書編集ダイアログボックスが起動します．

図 4.32　覚書入力ダイアログボックス

「覚書情報編集エリア」で，レコードに付与するメモなどを入力した後，【OK】をクリックすると，当該ユーザ情報レコードに覚書が付与されます．

参照情報の付与

各レコードの編集ダイアログで，【参照】をクリックすると，図 4.33に示す参照情報編集ダイアログボックスが起動します．

図 4.33 参照入力ダイアログボックス

「参照指定リストボックス」中には，現在ユーザ情報中にあるレコードIDの一覧が表示されています．レコードを参照情報として指定するには，レコードIDをクリックして反転表示させて下さい．また，参照を解除するには，再度クリックして，通常表示に戻して下さい．

なお，ダイアログ起動時にすでに参照情報として指定されているレコードIDは，最初から反転表示となっています．

参照情報の指定が終了したら，【OK】をクリックすれば，反転表示になっているレコードIDが参照情報として付与されます．

4.5.2 ユーザ情報レコードの新規作成

[ユーザ情報編集]- [新規] のサブメニューから，新規作成したいレコードを選択すると，「レコードの変更」で起動したものと同じ編集ダイアログボックスが起動します．起動時にデータがまったく入っていないことを除き，操作等は変更の際と同様です．

新規作成した場合には， 新しいレコードIDを付与した新規レコードが，ユーザ情報中に作成されます．

4.5.3 ユーザ情報レコードの削除

ユーザ情報表示エリアでレコードを選択し ,[ユーザ情報編集]- [削除](Del) コマンドを選択します．選択されたレコードが削除されます．

なお，レコードが削除された場合に，レコードIDの付けかえは行われません．したがって，例えば「単語003」というレコードを削除した場合，それ以降に「 ~003」というレコードは作成されません．

4.5.4 ユーザ情報レコードのコピー

ユーザ情報表示エリアでレコードを選択し ,[ユーザ情報編集]- [コピー](Ctrl+V) コマンドを選択します . 選択されたレコードの内容をコピーし , 新たなレコードID を付与した新規レコードが作成されます .

4.5.5 取消

[ユーザ情報編集]- [取消](Ctrl+U) コマンドを選択することにより , ユーザ情報の状態を , 一つ前に戻すことができます . すなわち , 一つ前にユーザ情報に対して行なった動作により , 以下のような処理となります .

「ユーザ情報クリア」の後	クリアする前の状態に戻します .
「レコード削除」の後	削除したレコードを復活します .
「レコードコピー」の後	コピーしたレコードを消去します .
「辞書検索結果の取込」の後	取り込んだレコードを消去します .
「レコード変更」の後	変更したレコードを元の状態に戻します .

一旦「取消」を実行すると , 取消実行前の状態に戻すことはできません . また , ユーザ情報に対して変更がなされていない場合には , このメニュー項目はセンシティブにはなりません .

4.5.6 キーワードの設定

ユーザ情報に付けられるキーワードは ,[ユーザ情報編集]- [キーワード] コマンドにより起動する , キーワード設定ダイアログボックスで設定することができます . 図 4.34に , ダイアログボックスを示します .

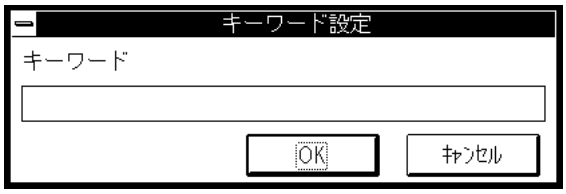


図 4.34 キーワード入力ダイアログボックス

「キーワード入力エリア」でキーワードを指定し , OK をクリックします . 以降 , ユーザ情報表示エリアの「キーワード : 」欄に , ここで設定したキーワードが表示されるようになります .

なお , キーワードは , ユーザ情報保存時にも変更することができます . 詳しくは , 「ユーザ情報の保存」の項を参照して下さい .

4.5.7 ユーザ情報のクリア

現在あるユーザ情報をクリアして , 空の状態にします . その際 , ユーザ情報のファイルへの保存を確認するメッセージボックスが起動しますので , 【はい】【いいえ】のどちらかをクリックして下さい .

ユーザ情報がクリアされ , システム起動時と同じ状態に戻ります .

4.5.8 ユーザ情報の保存

ユーザ情報をファイルに保存するには，[ファイル]→[ユーザ情報保存](Ctrl+S) コマンドを選択します．ここで，図 4.35に示すユーザ情報保存ダイアログボックスが起動します．

図 4.35 ユーザ情報保存ダイアログボックス

ファイル名入力エリアには，デフォルトのファイル名が表示されています．現在のユーザ情報が，既存のユーザ情報ファイルから読み込んだものであればそのファイル名が，そうでない場合には，デフォルトファイル名である "UINFO.UIF" が表示されています．ファイル名を変更したい場合は，入力し直して下さい．なお，ユーザ情報ファイルの拡張子は，".UIF" で固定です．拡張子が違う場合には，自動的に ".UIF" に変更します．

キーワード入力エリアには，現在のユーザ情報に付与されているキーワードが表示されます．変更したい場合は，このエリアで変更して下さい．

設定が終わったら，【OK】をクリックして下さい．ユーザ情報が，指定されたファイル名で，EDBroW 実行時のディレクトリに保存されます．

なお，このダイアログボックスは，ユーザ情報クリア時や，システム終了時に，「現在のユーザ情報を保存する」を選択した場合にも起動します．動作はここで述べた場合と同様です．

4.5.9 ユーザ情報の読み込み

ユーザ情報をファイルから読み込むには，[ファイル]→[ユーザ情報読込](Ctrl+L)コマンドを選択します．ここで，図 4.36に示すユーザ情報読込ダイアログボックスが起動します．

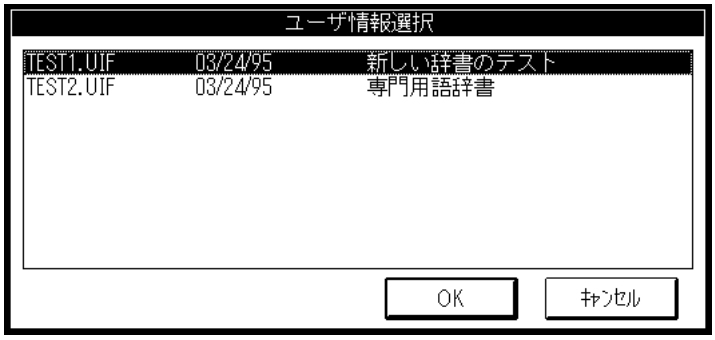


図 4.36 ユーザ情報読込ダイアログボックス

各ユーザ情報ファイルが，以下の形式でリスト表示されます．

〈ファイル名〉¥t〈日付〉¥t〈キーワード〉

読み込みたいファイルをマウスでクリックして反転表示させ，【OK】をクリックすれば，ファ

イル中のユーザ情報を読み込み，ユーザ情報表示エリアに表示します．

なお，ユーザ情報ファイルは，EDBroW 実行時のディレクトリにある，拡張子 が ".UIF" であるファイルのみが対象です．

4.5.10 ユーザ情報の印刷

現在のユーザ情報を，プリンタに出力します．出力の形式は，「詳細表示」モード時の形式と同様です．

なお，起動するダイアログボックスの内容は，システムにより異なります．

4.6 その他の操作

4.6.1 モードの変更

[ファイル]-[モード変更](Ctrl+D)コマンドを実行すると，図4.37に示すモード変更ダイアログボックスが表示されます．

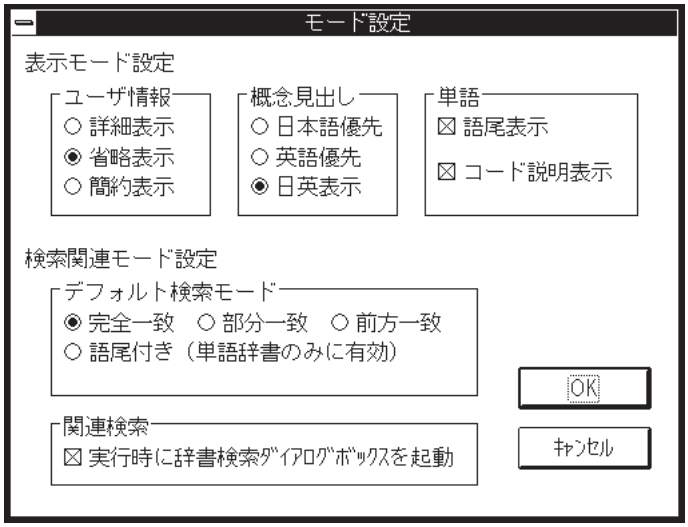


図 4.37 モード設定ダイアログボックス

モード変更は，「ユーザ情報表示モード」「概念見出し表示モード」「デフォルト検索モード」はラジオボタンでモードを選択，その他のモードはチェックボックスで ON/OFF を選択できるようになっています．

モードの選択が終了したら，OK をクリックして下さい．モードが変更されます．

ユーザ情報表示モードについては，メニューから直接モード変更することもできます．その方法は以下の通りです．

- [表示] メニューをクリックすると，3 種類のモードがメニュー上に表示され，現在選択されているモードにチェックマークが付いている．
- 選択したいモードの上までマウスを移動し，再度クリックすると，モードが変更される．

4.6.2 辞書の切換

EDBroW では，システムの動作中に，システム辞書ファイルを切りかえることもできます．デフォルトでは，システム初期化ファイルに記述されているパス名の辞書を利用しますが，それ以外の辞書を利用したい場合には，[ファイル]- [辞書切換](Ctrl+J) を選択して下さい．図 4.38に示すダイアログボックスが表示されます．

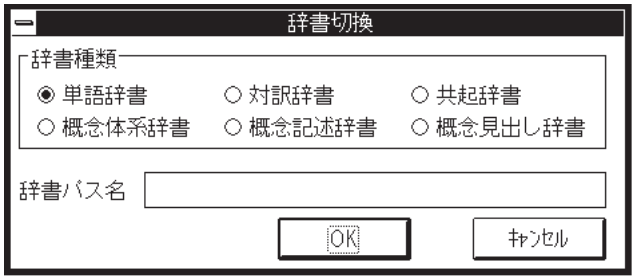


図 4.38 辞書切換ダイアログボックス

ここで，ラジオボタンにより変更したいシステム辞書の種類を入力し，対応するシステム辞書のパス名を入力します．最後に【OK】をクリックすれば，指定されたシステム辞書が切りかわります．

ここで，辞書のパス名が間違っている，あるいは，指定した辞書種類と，パス名で指定した辞書ファイルとの整合がとれない (種類が異なる) 場合には，エラーメッセージが表示されますが，そうでない場合には，何も表示されません．